

大学院単位認定

この公開講座・セミナー・シンポジウム等は大学院医学研究科の単位認定対象となっております。単位認定の条件や対象科目等は下記をご確認ください。

単位認定条件

大学院生の方は、受講後、「出席票」を教務課(大学院担当)までご提出ください。
出席票は、履修管理システムからダウンロードすることができます。

【履修管理システム】

博士課程：<http://lms.juntendo.ac.jp/>

修士課程：<http://mst.juntendo.ac.jp/>

認定科目

【博士課程】

Current Topics ※必修「大学院特別講義」に振り替えることはできません。

【修士課程(医科学コース)】

選択科目「**大学院セミナー**」



難病・遺伝医学 セミナー

講演：ミトコンドリア伝播を介した新たながん免疫逃避機構の解明

2025年

5月28日 **水** 18:00-19:00

順天堂大学10号館1F・105カンファレンスルーム

講師紹介：富樫 庸介先生

岡山大学学術研究院医歯薬学域（医）腫瘍微小環境学分野

岡山大学病院呼吸器・アレルギー内科

座長：岡崎康司（難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター）

司会：永瀬浩喜（難病の診断と治療研究センター）

概要:免疫チェックポイント阻害剤はT細胞を活性化して効果を発揮している治療であるため、腫瘍微小環境のT細胞がその効果に重要である（腫瘍浸潤リンパ球;TIL）。ミトコンドリアは酸化的リン酸化を介してT細胞のメモリー形成などに重要とされているが、TILでは機能が障害されていることが報告されている。我々はヒトTILのmtDNAをシーケンスしたところ、高アレルフリーケンシーで40%程度変異がTILに見つかり、更にペアのがん細胞のmtDNA変異と大部分が共有されていた。がん細胞のミトコンドリアを特異的なレポータータンパク質（赤）でラベルし、TILのミトコンドリアを異なる緑色で染色し、共培養を行ったところ、徐々にTILに赤が混ざって、一部は入れ替わってしまい、変異型ホモプラスミーに置換してしまうものも出現した。mtDNA変異型TILは様々な機能低下を来し、特にメモリー形成が障害され、マウスモデルでも抗PD-1抗体の治療効果の減弱、並びにリチャレンジした腫瘍が生着しやすくなってしまった。200例近い臨床検体の解析でも腫瘍組織のmtDNA変異が抗PD-1抗体療法の予後不良因子であることも明らかにした(Togashi Y, et al. *Nature* 2025)。

申込方法：以下の申込フォーム・QRコードよりお申込みください。

※開催日までに詳細と招待URLのご案内メールをお送り致します。

<https://forms.gle/aZW1XhmcSykr3UfT6>

本講演はハイブリッド形式（現地+Zoom）

にて開催いたします。

5月27日（火）17時締切



お問い合わせ

難病の診断と治療研究センター/ゲノム診療センター

岡崎/加藤（内線：2112）

共催：順天堂大学大学院医学研究科

順天堂大学大学院HP

